



笑い声いっぱいがいいな

たかはまこさん(漫画家)



「ただたかえ！お母さん 1」(ベネッセコーポレーション)より
公園デビューをテーマにした漫画のひとコマ
©たかはまこ

出身地をペンネームにしたのはデビューのとき、軽い思いつきで。でも、生まれ育ったこのまちへの愛情表現でもあるかなって思います。出産を機に東京から戻り、20年以上、高浜市を舞台に子育てマンガを描いてきました。子どもの失敗や親の勘違いも、愛情があるからこそ笑いになります。それってとても幸せなこと。大人と子どもの笑い声いっぱいのたかはまであってほしいと思います。

1981年漫画家デビュー。長男誕生後、子育ての毎日を描いた作品が話題に。『広報たかはま』では市民から寄せられたエピソードで四コマ漫画を執筆。主な作品は『ただたかえ！お母さん』(ベネッセコーポレーション)、『B級ママでいこう！』(主婦の友社)、『笑うママの生活』(竹書房)

「東北の被災地で、津波で壁が無くなった校舎や持ち主のわからないランドセルを見て、涙がでました。」

「考え方が変わった。家や学校、身近な場所の標高を覚えました。」

「家族とはぐれたら嫌だから避難場所を話し合いました。」

「災害時に役立つものの作り方を友だちにも教えたいな。」

「近所の人と繋がりが強ければ避難所でも心強いと思うから、ちゃんとあいさつをします。」

「僕たち私たちにできるのは、みんなに防災について伝えることだと思います。」

子どもにもできることがあると伝えたいです

杉浦涼音さん、藤すずなさん、榊原一真さん、
岡田野乃佳さん、藤堂ひかるさん、桂川昌大さん
(高取小学校6年生、H26こども防災リーダー養成講座受講生)

「石巻市に視察に行ったことで、木々があり花が咲き、学校があってみんなが笑っている、自分にとっての当たり前が、永遠に続くものではないということを知ったみたいです。」
(ひかるさんのお母さん)



とことん聞き書きしたい底深さ

佐野直子さん
(名古屋市立大学大学院准教授)

勤務校で実施している「聞き書き」実習が縁で、高浜市をたびたび訪れています。「鬼みちまつり」の皆さんのパワーには圧倒されました！見たいもの、聞きたいものがただたくさんあります。皆さんのお話、聞かせてください。

「よそ者で研究者」の眼に映るたかはまの歴史と今の魅力

金子 智さん、安藤さおりさん、今泉岳大さん
(高浜市やきもの里かわら美術館学芸員)

「人々がみんな明るくて伝統があるまち。歴史を調べていくたびに楽しい発見があります。」
「着任したころ、辻々にあるちょっとしたお堂の屋根瓦がどれも豪華で驚きました。地域の方に昔話を聞いて、紡いでいきたいです。」

「いろんなものがギュッとまとまっていて便利。ものづくりのまちだからか、美術に対しても柔軟な印象があります。」

